

## ハイデルベルク信仰問答より

問 117 神を喜ばせ、神に聞かれる祈りの内容は、どのようなものですか。

答え 第一に、私たちが心から、御言葉においてご自身を現わされた唯一の真の神に、求めよとお命じになった一切のことを呼び求めること。次に、私たちはあますところなく、自分の窮乏と悪条件を認識すること。それは私たちが、神の尊厳の前で、自らを謙遜にするためであります。第三に、私たちは自分が価値なき者であるにもかかわらず、御言葉において約束されたように、神は私たちの主なるキリストのゆえに、確実に、私たちの祈りを聞いてくださるのを確信することです。

## 〔別訳〕

第一に、御自身を御言葉においてわたしたちに啓示された唯一のまことの神に対してのみ、この方がわたしたちに求めるようにとお命じになったすべての事柄を、わたしたちが心から請い求める、ということ。第二に、わたしたちが自分の乏しさと悲惨さを深く悟り、この方の威厳の前にへりくだる、ということ。第三に、わたしたちがそれに値しないにもかかわらず、ただ主キリストのゆえに、この方がわたしたちの祈りを確かに聞き入れてくださるといふ、揺るがない確信を持つことです。それは、神が御言葉においてわたしたちに約束なさったとおりです。

問いの中で「神を喜ばせ、神に聞かれる祈り」とサラリと言われていますが、祈る者にとってこれは最も知りたいことではないでしょうか。自分の祈りが本当に聞かれているのかどうか確信を持ってない人は少なくないからです。祈ったことが叶えられないと、祈り方が間違えているのではないかという思いになることもあります。この負のサイクルに嵌りこんでいくと、ついには「神はおられないのではないか」というところにまで行ってしまふかもしれません。祈りにおいて神との血の通った関係を構築する上で、今日の間答は重要でしょう。

「神を喜ばせ、神に聞かれる祈り」について、答えでは三つのポイントが示されています。

- ① 私たちが心から、御言葉においてご自身を現わされた唯一の真の神に、求めよとお命じになった一切のことを呼び求めること（→心から求める）
- ② 私たちはあますところなく、自分の窮乏と悪条件を認識すること（→へりくだる）
- ③ 神は私たちの主なるキリストのゆえに、確実に、私たちの祈りを聞いてくださるのを確信すること（→確信を持つ）

シンプルに理解できるように、簡略化したことばをタイトルにして見てまいります。

## ① 心から求める

私たちの祈りは「心から」のものでしょうか。祈りにおいて気をつけなくてはならないのは、形式的になりやすいことです。いつも通り一辺倒の内容であったり、神への畏れを欠いていたり、神の力を自分の常識の範囲内に収めてしまうと、力ある祈りとはなりません。わずかな言葉であっても、神の心を動かすような熱意の伴う祈りが求められているのです。

信仰による祈りは、弱っている人を救い、主はその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯しているのであれば、主は赦してください。それゆえ、癒やされるように、互いに罪を告白し、互いのために祈りなさい。正しい人の執り成しは、大いに力があり、効果があります。エリヤは、私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈ると、三年六か月にわたって地上に雨が降りませんでした。しかし、再び祈ると、天は雨を降らせ、大地は実りをもたらしました。

(ヤコブ5:15-18)

## ② へりくだる

神の御前にある人間の最もふさわしくない態度とは「高ぶり」です。自分が救われた罪人であることを忘れるとき、隣人を裁く心が現れます。祈りにおいては神との垂直の関係に集中すべきであって、人と自分を比較する思いは持ち込まないようにしましょう。

自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、私はほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でなく、また、この徴税人のような者でないことを感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人の私を憐れんでください。』言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。誰でも、高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」(ルカ 18:9-14)

## ③ 確信を持つ

神が私たちの祈りを聞いてくださっている根拠があります。それは、大祭司イエスが私たちを常にとりなしてくださっていることです。「神は私たちの主なるキリストのゆえに……私たちの祈りを聞いてくださる」。祈るときに私たちがイメージすべきことは、主イエスが私たちの傍らに立って共に父なる神様に向き合ってくださいている姿です。主イエスは罪深い私たちの友となってくださいだったのであり、私たちが心から父なる神様に対して祈れるように、罪が赦されるように、聖めの道筋を歩み続けられるように、常にとりなしてくださっています。

誰が神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。人を義としてくださるのは神なのです。誰が罪に定めることができます。死んだ方、否、むしろ復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右におられ、私たちのために執り成してください。 (ローマ 8:34-35)

今日は祈りにおける三つの姿勢、心から求め、へりくだり、確信を持って祈ることを心に留めたいと思います。私たちの祈りが常に新鮮な言葉で満ちることを求めてまいりましょう。